鹿児島県立鹿児島中央高等学校　～自主 好学 敬愛～

進路指導室だより 11 月号

発行：進路指導部企画運営係〈令和7年 11 月 28 日〉

大学入学共通テストに向けて

３年生は，大学入学共通テストまで，あと２か月ほどになってきました。直前期である 12 月の過ごし方が，共通テストでの好成績を収めるための重要な期間です。そして，これまで並行して進めてきた個別試験対策との学習時間のバランスを思い切って見直し，共通テストに特化した戦略へと舵を切るべき重要な局面でもあります。共通テストの成否を分けるのは，問題自体の難易度ではありません。むしろ，特有の出題形式と厳しい時間制限への習熟度が，結果を大きく左右します。しかし，これは裏を返せば，残された期間でも対策が十分可能だということになります。この最終盤での演習量を大幅に増やし，時間配分の感覚を体に染み込ませることができれば，得点を大幅に向上させることは可能です。

そこで，この２か月で心掛けてほしいことを一覧表にまとめてみました。ぜひ，参考にしてみてください。

【直前期の必勝チェックリスト】

1，知識を徹底的に
※知識問題で確実に得点するためには，暗記事項の完成度が，大きく左右します。登下校中や休み時間などの隙間時間を最大限に活用し，繰り返し確認していきましょう。

2，試験日程に合わせた生活のリズムを
※ 大学入学共通テストは，実施されるニ日間ともに午前中から18時過ぎまで行われます。特に，多くの科目が午後に実施されるので，夕方まで集中できる生活のリズムを確立させることが大切です。直前演習として校内で実施される共通テスト対策演習（４回）を活用して，入試本番と同じ時間帯で高い集中力を持続させていけるよう心がけてください。

3，万全な体調管理を
※最後の最後に体調を崩すことほど悔しいことはありません。うがい・手洗いの励行と食事や睡眠をしっかりとるといった規則正しい生活を心がけることが重要です。

4，学習方針の再確認
※ 12月からは共通テスト対策が学習の主軸であることを再確認し、週に一度は必ずマーク式演習を行うなど，大学入学共通テストで好成績を収めるための学習を徹底してください。

模試データに基づく主要大学入試動向分析

2025 年度大学入試における主要大学の志望動向を早期に把握することで，３年生は，今後の受験戦略を組み立てやすくなります。その分析の根拠となるデータは，信頼性の高い指標として広く認知されている「2025 年度第１回ベネッセ・駿台共通テスト模試」の情報です。この模試は，全国の多数の受験生が参加するため，現時点での志望動向を測る上で極めて重要な資料となります。

そこで，多くの本校生徒が，志望している九州地区の主な国立大学の動向や広島大学・岡山大学の情報をまとめてみました。

1，九州大学の動向
九州大学は，依然として高い人気を維持しています。2025年度の志望者動向を見ると，法学部（前年比114%↑），経済学部（経済・経営119%↑），理学部（115%↑），工学部（114%↑）といった主要学部で軒並み志望者が増加しており，大学全体として人気がさらに高まっていることがうかがえます。これは，難関大学への挑戦意欲を持つ上位層の受験生が，引き続き九州大学を第一志望として強く意識していることの表れと言えるでしょう。

2，広島大学・岡山大学の動向
岡山大学経済学部（119%↑）や広島大学法学部（121%↑）といった文系の基幹学部で志望者が大幅に増加していることがわかります。この傾向は，過年度の実質倍率にも表れており，岡山大学経済学部は1.6倍（23年度）から2.1倍（24年度）へ，広島大学法学部は1.8倍（23年度）から2.3倍（24年度）へと競争が激化しています。これは資格取得や就職に有利とされる伝統的な社会科学系学部への人気回帰を明確に示しています。

3，熊本大学 工学部（半導体デバイス工学課程）
志望者数 568名（前年比 107%↑）と，近年の半導体産業の集積を背景とした新設分野への高い関心がうかがえます。

4， 鹿児島大学 共同獣医学部
B判定ラインが66と非常に高く，過年度の実質倍率も8.4倍（2024年度）を記録するなど，依然として全国トップクラスの難易度と競争率を維持しています。

5，長崎大学 経済学部
志望者数が前年比116%↑と大きく増加しており，地域の経済を担う人材育成方針に対する受験の大きな期待が表れています。

6， 佐賀大学 理工学部
全体で志望者数が前年比111%↑と増加しており，特に情報分野への志望者が542名と多く，情報系への関心の高さがここでも確認できます。

令和９年度鹿児島大学入試変更点（２年生対象）

２年生の皆さんも 11 月全国模試から理科・地歴公民の科目を受験し，志望校合格に向けた受験学習がスタートしました。そこで，２年生対象の「令和９年度鹿児島大学入試変更点」を取り上げます。入試変更点を正しく理解することで，ライバルに差をつける準備を始めましょう。詳細については，大学のウェブサイトで必ず確認してください。

令和９年度鹿児島大学入試の主な変更点

①「地域志向」と「専門性」の重視
※教育学部初等教育コース学校推薦型選抜入試Ⅱにおける「地域教員希望枠（９人）」や医学部保健学科総合型選抜入試における「離島枠（２人）」が新設されます。

②「多面的な評価」へのシフト
※教育学部学校推薦型選抜入試において，複数のコースで学業成績だけでなく部活動やボランティアなどの活動実績を評価対象に加える動きがあります。そのため，高校生活全体を通しての主体的な学びが重要になってきます。

③ 後期日程から前期・推薦重視への移行
※共同獣医学部や教育学部で後期日程が廃止・縮小され、専門性の高い推薦・総合型選抜が拡充されたことは、大学側が早期に鹿児島大学を第一志望とする「強い動機」を持った学生を求めていることを示しています。

「打つ」と「あたる」の違い

数学科

先月，ある温泉施設で茶色い皮に覆われた小さな塊の作物が袋で売られているのを見た。私はニンニクかと思い，店の人に食べられるかどうかを尋ねたところ，これはラッキョウの種で食べることはできないと教えていただいた。私は初めてラッキョウに種があることを知った。ラッキョウは植物なので種があるのは当然であるが，目にしたのは初めてであった。 まさに「無知の知」ならぬ「無知の無知」である。内心恥ずかしく思った。

さて，私は「東京 2020」オリンピックが行われた年に剣豪宮本武蔵の書いた「五輪の書」を紐解いたことがある。その中の水の巻に「打つとあたるということ」というくだりがあった。武蔵によれば，太刀を振るった際に「打つ」と「あたる」は別のものだというのだ。「打つ」ことは意識的に太刀を振るうことをいい，「あたる」とは偶然相手にあたることを意味する。私は，昨年本校剣道部の練習試合を見学させていただいた際にそれを感じた。

試合で竹刀が相手の面や胴，小手に当たっているように見えるのだが，なかなか”技あり”にならない。”当たる”だけではだめで気持ちのこもった一打でなければならない。「打つ」と「あたる」の違いを見抜くことは素人には難しい。このことを学校生活に置き換えるとどうだろうか。授業でも部活でも「理解しよう」とか「上手くなろう」という気持ちがなければ，成長しないだろう。宮本武蔵といえば二刀流の元祖である。現在は大谷翔平選手が有名であるが，私は勉強と部活を立派に両立させている中央生諸君だって立派な二刀流者であると思う。特に私が感心させられたのは部活をしながら成績上位の結果を出している人たちである。彼らはどのように努力しているのだろうか。教育相談で聞いてみたところ，いくつかの共通点があることを知った。まず宿題は必ず自力で取り組んでいることである。英語の宿題では訳を機械にさせるのではなく自分で単語を調べて訳す。また，数学では日々題の模範解答を写すのではなく，その前に必ず自分で解く。自分で考えることを行っているのだ。また彼らの多くは塾などで特別な学習はしていない。学校の課題を大切にし，丁寧に取り組んでいた。さらに驚くべきことにある優秀な生徒の平日の学習時間は１時間程度で，睡眠時間は７時間以上であることだった。半信半疑で聞いてみたところ「平日は部活で疲れて，家に帰ると眠く，あまり勉強せずに寝てしまう。でもその代わり授業中は絶対寝ないという気持ちで真剣に聞いている。」と答えた。さらにその生徒を観察していると，他の生徒と比べて授業の取り掛かりから板書を写すスピード，教科書を読むスピードなどが他の生徒よりも圧倒的に早いことが分かった。だらだらしていないのだ。また，写すだけの“逃げ“の学習は行わない。正攻法である。これこそが成長の鍵ではないだろうか。また，ある成績優秀な生徒は，家に帰ってからも３０分ほどトレーニングをしているそうである。レギュラーに定着するためには努力を惜しまない。私は，二刀流を体現している多くの中央生に心からエールを送りたいと思います。努力は必ず報われる。最後に本校剣道部の顧問は當先生であるが部員は「打つ」ために毎日厳しい練習に耐え，汗を流し，頑張っていることを付け加えます。